

はじめに

理事 情報研究所長 鈴木 道夫



重要な社会インフラの一つである電力供給には、安全と安定が求められているが、一方において、電気事業は、電力市場自由化による競争時代を迎えている。この社会状況に対処する技術として、広域・複雑な電力システムの効率的かつ高信頼度な運用、そして今後多くの導入が見込まれる各種新電源の最適運用制御、既設設備有効利用のための保守・運用技術の高度化、複雑・多様化する業務の効率化、さらには、健全な電力市場形成のための制度設計などが重要になってくる。

これまでの電気事業における情報・通信技術は、電力システムの安定運用、業務の効率化支援に重きがおかれていたため、どちらかと言うとシーズ指向の傾向が強く、また前面に出ることは少なかったように思われる。

しかしながら、2000年の九州・沖縄サミットで、IT（情報通信技術）を「21世紀を形作る最強の力の1つ」としているように、今や、ITは多くの企業において、業務プロセス改革の鍵となっており、それが提供する高度な情報収集・情報処理・情報共有・情報表示等の活用が、経営そのものと密接に関連するような状況になっている。特に、情報のネットワーク化、CPUの高速化などは、ネットワークを基盤とする電気事業にとって、必須の技術である。そこで、本レビューでは、当所が取り組んでいるIT関連研究について、「電力流通の信頼度確保」「業務の流れの効率化」「技術革新の支援」の観点から紹介した。

ITは、日に日に進展し、次々と新しいアイデア・技術が産み出されている。これらの中で、真に電気事業に役立つ技術は何か。これを考えながら、研究に邁進する所存でございます。皆様からの従来に増してのご指導、ご鞭撻をお願いいたします。